IGS 日本支部総会

IGS 日本支部　2010 年通常総会　議事録（案）

1．日　時：　平成 22 年 2 月 8 日（月）16：00～17：00

2．場　所：　地盤工学会　地下 A 会議室

3．議事資料：2010 年通常総会議題書

4．議事内容

（ア）開会宣言

・平井幹事長より 2010 年通常総会の開会宣言がなされた。

・出席者は、個人会員 22 名、特別会員代表者 6 名、委任状は、個人会員 107 名、特別会員 5 社で総票数 184。全会員票数 328 の 2 分の 1（164）を上回り、通常総会は成立

（イ）議長選出及び議長挨拶

・議長には三木支部長が選出され、承認された。

（ウ）2009 年事業報告及び 2010 年事業計画【資料-1】

・資料に基づき、桑野副支部長より日本支部の現況会員数等について、各委員会より 2009 年活動報告及び 2010 年活動計画についてそれぞれ説明がなされた。

・出席者から、構造物の補修等といった新しいニーズに合わせた委員会構成としてほしい（中村前幹事）。との要望が出された。

（エ）2009 年収支決算・2010 年予算(案)（財務委員会）【資料-2】

・資料に基づき、伊藤会計幹事より 2009 年度決算報告、2010 年度予算(案)について説明がなされ、承認された。

（オ）2009 年監査報告【資料-3】

・資料に基づき、間会計監事より 2009 年一般会計は適正かつ正確であることが報告された。

（カ）2010 年役員の選出【資料-4】

・資料に基づき、2010 年度役員の再任について説明がなされ、承認された。

（キ）龍岡会長挨拶

・IGS 会長・理事選挙について、日本支部の協力を要請された。

（ク）大谷理事挨拶

・現在構想中である IGS における TC の設立について、日本支部の協力を要請された。

（ケ）事務連絡

・平井幹事長より IGS 選挙への電子投票およびブラジル会議への参加について、日本支部の協力をお願された。

（コ）閉会挨拶

・桑野副支部長の閉会挨拶により、2010 年通常総会は閉会した。

以上

＜2009 年度事業報告及び 2010 年度事業計画＞

１．現況会員数（2009 年 12 月 31 日現在）

正会員　２２８名、特別会員　２０社、学生会員　２２名
（２００８年末の会員数：　正会員　２４０名、特別会員　２０社、学生会員　２３名）

２．日本支部の主な活動

１．IGS 理事会への出席（敬称略）
2009 年 8 月 31 日，9 月 1 日
南アフリカ、ケープタウン・Victoria & Alfred Hotel
日本の出席者：龍岡会長、大谷理事、桑野理事、
２．IGS 本部への会員名簿の提出
３．2009 年 12 月 3，4 日　第 24 回ジオシンセティックスシンポジウム
４．電子ジャーナル化：
論文集：2007-2009 は J-Stage で公開中（2007-2008 は完全オープン公開）
2009 年分は 2010 年 1 月 22 日に公開。12 月 2 日までは会員限定公開。
2006 年以前は Journal@rchive にて完全オープン公開中（2009 年 12 月 17 日より）
技術情報：2008 年以前は Journal@rchive に掲載予定（申込済だが掲載時期は JST の予算次第）
2009 年以降は J-Stage で公開するよう準備中。

３．刊行物の発行事業

１．国際ジオシンセティックス学会日本支部会員名簿
２．ジオシンセティックス技術情報（3 月，7 月，11 月号）
３．ジオシンセティックス論文集第２４巻

以上

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2009 年活動報告

（1）編集委員会の活動概要

1) 第１回編集委員会（日時：平成 21 年２月６日(金)，場所：三井化学産資　8F 会議室）
- '09 編集体制の確認・検討・決定
- '09.3 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
- '09. 7 月号の特集の検討：「ジオシンセティックス分野の数値解析」

2) 第２回編集委員会（日時：平成 21 年５月８日(金)，場所：三井化学産資　8F 会議室）
- 委員の退任，交代のため，'09 編集体制の見直し，再決定
- '09. 7 月号の執筆依頼検討および特集の技術報文の検討：「ジオシンセティックス分野の数値解析」
- 「ジオシンセティックス用語集（案）」の内容の最終調整
- 技術賞，技術奨励賞の技術報文推薦について

3) 第３回編集委員会（日時：平成 21 年７月８日(水)，場所：三井化学産資　8F 会議室）
- '09. 7 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
- '09. 11 月号の目次案の検討
- 「ジオシンセティックス用語集（案）」の完成，内容確認，７月号とあわせて会員に配布
- 12 月末まで「ジオシンセティックス用語集（案）」を会員に公開し，記述内容の照会の実施を決定。

4) 第４回編集委員会（日時：平成 21 年９月 28 日(月)，場所：三井化学産資　8F 会議室）
- '09.11 月号の目次案の確認と編集工程の検討
- '10.7 月号の特集の検討：「ブラジル会議」
- '10 編集体制の検討および決定
- 編集委員の構成についての検討（行政分野，ゼネコン分野からの委員の確保について）
- 「ジオシンセティックス用語集（案）」への会員からの意見への対応

5) 第５回編集委員会（日時：平成 21 年 11 月 16 日(月)，場所：三井化学産資　8F 会議室）
- '09.11 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
- '10. 3 月号の目次案および編集工程の検討
- 「ジオシンセティックス用語集」を３月号にあわせて発行することを決定
- 技術情報誌のアーカイブ化に関する検討
- 委員の退任，交代のため，'10 編集体制の見直し，再決定

（2）2009 年委員会設営費報告

内　訳	予算（円）	実績（円）	備　考
①　委員会経費			
・編集委員会	200,000	200,000	小計
		5,000	第１回編集委員会交通費
		69,000	第２回編集委員会交通費
		68,000	第３回編集委員会交通費
		8,000	第４回編集委員会交通費
		50,000	第５回編集委員会交通費
②　講習会・出版等支出			
・用語集出版費	100,000	0	小計
合　計	300,000	200,000	

用語集については，平成 20 年度に編集作業を終了し出版する予定であったが，内容調整と会員への公示期間を確保したため，平成 22 年度に用語集を出版することとし出版費は使用されなかった。

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2010 年活動計画

（1）活動計画

＜全体の活動内容＞

定期発刊を心掛けるとともに，「技術報文」の投稿については，編集委員による情報収集のほか，シンポジウム掲載論文や他学協会の年次講演会を範疇に入れ，JC-JGS 技術賞候補論文および JC-JGS 技術奨励賞論文の対象に成り得るような質の高い「技術報文」の掘り起こしを積極的に行う予定である。例年通り，７月号を特集号として位置付け，**「第９回国際ジオシンセティックス会議（ブラジル会議）」**をテーマとして会議内容の報告を行う。

また，我が国におけるジオシンセティックス関連の規格・基準の整備の必要性が認識されつつあることから，ISO や ASTM で審議中の規格案に関する「審議情報」を積極的に掲載していく予定である。さらに，これまで同様，「修士，博士論文概要の紹介」などの掲載を引き続き行う。一方，「ジオシンセティックス用語集」については，2009 年度に「ジオシンセティックス用語集（案）」を会員へ配布し，公示するとともに意見照会を行った。今年度に会員に配布する予定である。

＜具体的な活動内容＞

１．ジオシンセティックス技術情報の発行

ジオシンセティック技術情報は，従来通り年３回の発行とする。

（2010 年３月号，2010 年７月号，2010 年 11 月号）

２．ジオシンセティックス用語集の配布

３．編集委員会

編集委員会においては，ジオシンセティックス技術情報を滞り無く発行するための定例業務として，目次案の検討や原稿執筆状況の確認などを行うとともに，編集に際しての問題点の解決を行う。また，継続的な審議事項として，編集方針や内容分類の整理，技術情報誌のアーカイブ化，テーマ特集号の設定，新企画の検討など，読者のニーズに合うように check and review を積極的に行う。なお，５月の編集委員会では，2010 年度技術賞，技術奨励賞の受賞候補となる技術報文の推薦選考を行う予定である。

開催予定：５回程度（２月，５月，７月，９月，１１月を予定）

４．編集WG

編集WGにおいては，幹事会および編集委員会で決定した編集方針に基づくジオシンセティックス技術情報の実質的な編集作業として，原稿の内容確認などを行う。なお，今年度の編集WG分担は以下に示す通りである。また，編集WGは，基本的にはメールで作業を行う。

10 年３月号：主査　小浪委員，副査：荻迫委員，原田委員
7 月号：主査　平川委員，副査：桝尾委員，木幡委員
11 月号：主査　石川委員，副査：川島委員，山崎委員

（2）2010 年設営費計画

平成 21 年度は，例年通りの交通費と昨年度作業を行った特別企画の用語集出版費を加えた以下の予算案としたい。ただし，これまで用語集出版費として，20 万円を計上していたが，用語集の内容を精査した結果，５万円以内で印刷可能と判断し，用語集出版費を５万円の予算とした。

内　訳	22 年度予算案（円）	備　考
①　委員会経費 ・編集委員会	 200,000 200,000	 委員会交通費 （73,000×2 回+18,000×3 回）
②　講習会・出版等支出 ・用語集出版費	50,000	②　講習会・出版等支出 ・用語集出版費
合　計	250,000	

行事委員会 2009 年活動報告

（1）2009 年活動報告

第２４回ジオシンセティックスシンポジウムを、１２月 3～4 日に、地盤工学会館で開催した。

２月　　会場、日時の決定
３月　１日　ジオシンセティックス技術情報への会告掲載
４月１０日　地盤工学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼（事務局経由）
地盤工学会誌へのシンポジウム論文募集案内（地盤工学会誌６月号）（事務局経由）
ホームページへの論文募集案内
６月２７日　繊維学会へ協賛と広報の依頼。
地盤工学会、IGS 日本支部でのメール、ジオシンセティックス技術情報での広報。
７月１３日　論文の申し込み締切（題目と概要）
８月１７日　本論文の提出締切
９月２９日　第１回行事委員会（論文査読結果のまとめなど）
９月３０日　本論文の査読結果返送
１０月３０日　本論文の修正原稿提出締切（必着）
１２月　２日　シンポジウム プレイベント（フットサル大会：２８名）
１２月３～４日　第２４回ジオシンセティックスシンポジウム（地盤工学会館）
参加者１１３名、一般発表(40 編)、特別講演(香川高専 小竹望教授)、災害復旧技術委員会報告、JC-IGS 論文賞・奨励賞・技術賞・技術奨励賞表彰式、懇親会５３名
１２月　４日　第２回行事委員会

（2）2009 年委員会設営費報告

内　訳	予　算	実　績	備　考
委員会設営費	50, 000	36, 140	
交通費	(20, 000)	(0)	論文集輸送費
通信費・消耗品費等	(30, 000)	13. 860	横断幕、学生謝金、会議費

（3）シンポジウム収支報告

内　訳	予　算	実　績	備　考
第２４回シンポジウム	－	-132, 653	
収入	520, 000	496, 000	
	(400, 000)	372, 000	シンポジウム参加費
	(100, 000)	96. 000	懇親会参加費
	(20, 000)	14, 000	プレイベント（フットサル）参加費
	－	0	論文集購入（現金０名）
	－	14, 000	請求書払い（４名）
支出	520, 000	628, 653	
	(0)	0	会場費・設営費
	(350, 000)	416, 010	論文集印刷費 210 部
	(10, 000)	50, 000	特別講演謝礼・交通費
	(30, 000)	6, 268	通信費・消耗品ほか
	(100, 000)	124, 098	懇親会費
	(30, 000)	32, 277	プレイベント（フットサル）経費

シンポジウム・懇親会参加の内訳

	シンポ参加人数	収入額		懇親会参加人数	収入額
正会員	６３	252,000	社会人	３２	96,000
非会員	１３	78,000			
招待	１３	0	学生	7	0
優待	6	24,000	招待	１４	0
学生	１８	18,000			
小計	１１３	372,000	小計	５３	96,000
				参加収入総計	468,000

請求書払い	4名	14,000円
フットサル参加費収入	28名	14,000円
	計	496,000円

行事委員会 2010 年活動計画

（1）2010 年活動予定内容

第２５回ジオシンセティックスシンポジウムは、１２月上旬、東京で開催する。
ジオシンセティックス論文集の投稿区分を、「研究開発論文」と「事例報告」に分ける。
本年は、アブストラクトの締切を５月として、編集作業に時間的余裕を持たせる。

1月	シンポジウム論文募集会告（技術情報）原稿提出
2月	地盤工学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼
2月下旬	シンポジウム論文募集会告（土と基礎5月号会告）原稿提出、Web、メールなどでの広報
4月上旬	繊維学会へのジオシンセティックスシンポジウム協賛依頼
5月	論文賞、論文奨励賞 推薦
5月 20 日	シンポジウム投稿論文題目と概要の申込み締切
6月上旬	第1回行事委員会： シンポジウム関連事項打合わせ（論文応募状況の確認、概要審査、プログラム概要決定・会告原稿作成、論文審査員候補者選定、査読要領・シンポジウム実施要領の検討、懇親会計画）
7月 13 日	本論文提出締切、査読依頼
8月 24 日	査読結果報告締切
9月上旬	第2回行事委員会： シンポジウム関連事項打合わせ（招待者、プログラム詳細、論文査読結果取りまとめ、役割分担、論文集編集、論文賞・奨励賞推薦関係）、査読結果通知
9月上旬	シンポジウム開催案内（土と基礎11月号会告）原稿提出
9～11 月	Web、メール、土木学会全国大会などにおける開催案内
11 月上旬	招待状発送（支部顧問、特別会員）
11 月中旬	修正済み原稿取りまとめ、論文集作成
12 月上旬	第25回ジオシンセティックスシンポジウム（予定会場：東京・地盤工学会）

（2）2010年設営費計画

2010年度の予算（案）

内　　訳	予　　算	備　　考
行事委員会設営費	50,000	
（内訳）	(20,000)	委員会交通費・事務局旅費ほか
	(30,000)	通信費・消耗品費等
第２５回シンポジウム	0	（東京）
（収入）	520,000	
	(400,000)	シンポジウム参加費
	(100,000)	懇親会参加費
	(20,000)	プレイベント参加費
（支出）	520,000	
	(0)	会場費・設営費
	(350,000)	論文集印刷費 210部
	(10,000)	特別講演謝礼・交通費
	(30,000)	通信費・事務局旅費ほか
	(100,000)	懇親会費
	(30,000)	プレイベント経費

2010年度　行事委員会名簿：

編集委員長　内村太郎（東京大学）
顧　　問　落合英俊（九州大学）
顧　　問　嘉門雅史（香川工業高等専門学校）
編集委員　金子賢治（八戸工業大学）
編集委員　河端俊典（神戸大学）
編集委員　熊谷浩二（八戸工業大学）
編集委員　小島謙一（(財)鉄道総合技術研究所）
編集委員　小竹　望（香川工業高等専門学校）
編集委員　中村　努（苫小牧高等工業専門学校）
編集委員　西形達明（関西大学）
編集委員　間　昭徳（三菱樹脂(株)）
編集委員　平川大貴（防衛大学校）
編集委員　峯岸邦夫（日本大学）
編集委員　安福規之（九州大学）
編集委員　吉田浩一（前田工繊(株)）

以上

学生・教育委員会 2009 年活動報告

（1）2009 年活動報告内容

1）委員会開催内容

第 1 回　学生・教育委員会
開催日：2009 年 3 月 27 日
会　場：飛島建設会議室
内　容：委員会運営方法について
見学会・入門セミナーの開催について

第 2 回　学生・教育委員会
開催日：2009 年 5 月 29 日
会　場：地盤工学会会議室
内　容：見学会実施に関する検討
入門セミナーの開催について（講師の人選）

第 3 回　学生・教育委員会　（幹事会）
開催日：2009 年 10 月 1 日
会　場：日本大学鎌尾研究室
内　容：見学会の日程に関する検討
入門セミナーの開催について（プログラムの確認）

第 4 回　学生・教育委員会
開催日：2009 年 12 月 1 日
会　場：日本大学理工学部会議室
内　容：入門セミナーの反省会

2）行事開催

第 11 回入門セミナー及び現場見学会
開催日時：2009 年 12 月 1 日（火）
会　　場：日本大学理工学部会議室
内　　容：ジオシンセティックスの設計（峯岸邦夫・日本大学）
ジオシンセティックスの機能と役割（中村和之・ジオデザイン）
遮水シートの適用例（GCL を中心にして）（志々目正高・ボルクレイ・ジャパン）
見学場所：圏央道市原南 IC 建設工事現場（バスにて移動）
参加人数：24 名

（2）2009 年委員会設営費報告

内　訳	予　算	実　績	備　考
委員会設営費			
会議費	36,000	35,121	委員交通費
入門セミナー及び見学会経費	64,000	64,620	バス代・手みやげ・お弁当代等
合計	100,000	99,741	

学生・教育委員会 2010 年活動計画

（1）2010 年活動予定内容

1）委員会開催
入門セミナー・見学会等の企画および技術資料の提供等に関して年 4 回程度の委員会を開催予定。

2）行事開催
第 12 回ジオシンセティックス入門セミナー
現場見学会

（2）2010 年設営費計画

内　　訳	予　　算
委員会設営費	
会議費	36,000
見学会経費	24,000
入門セミナー経費	40,000
合計	100,000

電子情報化委員会 2009 年活動報告

（1）2009 年活動報告内容

<主な活動内容>

・HP の更新、改良（ニュース、データーベースなど）
・論文集の公開、技術情報誌の電子化
・その他

1. HP の更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などについては HP 担当を中心として、更新等を実施した。また、HP 掲載に関する手続きを整理した。

2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化

論文集：J－Stage においてジオシンセティクス論文集の公開を昨年度から開始している。また、2007 年以前の論文についても、本年から Journal@rchive において掲載を開始した（下記 URL 参照）。

【日本語】http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=jcigsjournal1986
【英語】http://www.journalarchive.jst.go.jp/english/jnltop_en.php?cdjournal=jcigsjournal1986

技術情報誌：編集委員会と共同で電子化を進めている。本年、申請していた Journal@rchive において掲載が確定した。これに伴い、準備作業を実施中であり、あわせて著作権許諾のお願いについても HP 等で実施している。

3. その他

HP の内容の充実を図るべく、掲載内容について検討を進めた。特に、IGS 日本支部の活動内容について充実を図るよう検討を進めている。

（2）2009 年委員会設営費報告

予算：100,000 円
支出：80,410 円（HP メンテナンス作業等）
残金：19,590 円（返金）

電子情報化委員会 2010 年活動計画

（1）2010 年活動予定内容

<主な活動内容>

・HP の更新、改良（ニュース、データーベースなど）
・技術情報誌の公開
・その他

1. HP の更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などをできるだけ早く掲載を行っていく。

2. 技術情報誌の公開

公開作業を順次行っていく予定である。

3. その他

各委員会などの連携を深め、IGS 日本支部の活動内容を紹介していく。特に新技術委員会の成果を調整をとりながら、会員に有用な情報の紹介を行っていく。

（2）2010 年設営費計画

予算：100,000 円（HP のメンテナンス、技術情報誌公開作業（Journal@rchive e への登録）、会議費、交通費）

ジオシンセティックス試験法委員会 2009 年活動報告

（1）試験法委員会の活動概要

・地盤工学会基準部に平成 18 年度に新設された室内試験規格・基準検討委員会内のジオシンセティックス WG と連携して作業を進めている。

・2009 年度は，ジオシンセティックス関連５基準の策定および解説の執筆が終了し，それに付随する解説の校正を中心に活動した。

・下記のジオシンセティクス試験法の改訂案の解説執筆とその校正，および地盤工学会「地盤材料試験の方法と解説，第９編，ジオシンセティックス」が初めて組み込まれて刊行された。

- ジオテキスタイルの開孔径試験方法
- 土とジオシンセティックスの一面せん断試験
- ジオシンセティックスの土中引抜き試験
- ジオテキスタイル及びその関連製品の垂直方向透水性能試験
- ジオテキスタイル及びその関連製品の面内方向通水性能試験

（2）2009 年委員会設営費報告

2009 年度は，経費節減のため，メール審議を中心に活動したことと，地盤工学会／室内土質試験規格・基準委員会／WG6(ジオシンセティックス)と連動して委員会を開催したため，委員会設営費を使用せずに活動した。

内　訳	予算（円）	実績（円）	備　考
①　委員会経費 ・編集委員会	200,000	0	小計
合　計	200,000	0	残 200,000 円

ジオシンセティックス試験法委員会 2010 年活動計画

（1）活動計画

1) ISO で制定されている国際規格を参照しながら，今後，我が国において必要なジオシンセティックス基準を検討するとともに，土研センター，国内メーカー及び関連協会等と意見交換しながら，基準化すべき試験法を抽出する。

2) 基準化されていないジオシンセティックス試験方法や ISO 会議に関する国内の要望を収集するために，IGS 日本支部会員にアンケート調査を実施するとともに国内の意見調整を行う予定である。

3) ジオシンセティックスに関する JIS の２規格の見直しについて検討を行う予定である。

（2）2010 年設営費計画

１回の委員会開催およびアンケートの実施等に関する WG 会議を２回開催する予定であることから，以下の予算案としたい。

内　訳	2010 年度予算案(円)	備　考
①　委員会経費		
・試験法委員会	200,000	委員会交通費
	130,000	熊本あるいは苫小牧－東京（１回）
・WG 会議	70,000	WG 会議交通費（2 回）
合　計	200,000	

表彰委員会 2009 年活動報告

（1）2009 年表彰委員会活動報告内容

・2009 年度 IGS 日本支部賞の選考

2009 年度 IGS 日本支部賞は下記の各賞について表彰規定により、表彰委員会にて選考した。

2009 年 12 月 3 日のシンポジウム開催時に表彰を行った。以下に表彰者を示す。

①JC-IGS 論文賞

（ジオシンセティックスに関する学術および技術の進展に顕著な貢献をした論文の著者）

相馬亮一，園田陽介

『繰返し水平載荷による盛土の沈下・土圧増加とジオテキスタイル補強による解決』

井澤淳，桑野二郎

『壁面変位を用いた補強土擁壁の地震時損傷度評価』

②JC-IGS 論文奨励賞

（ジオシンセティックスに関する研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者）

松島健一

『補強土の直接せん断試験による引張り補強効果の強度発現メカニズムとその評価』

椋木俊文，永田孝輔，谷口徳晃

『X 線 CT 法を用いた破損ジオメンブレンからの地盤内漏水可視化実験』

③JC-IGS 技術賞（ジオシンセティックスに関する技術の進展に顕著な貢献をした、個人・グループ）

毛利栄征，松島健一，堀 俊和，有吉 充，山崎真司，龍岡文夫

『地震・洪水による堤体の災害と補強土工法による減災技術の開発』

④JC-IGS 技術奨励賞

（ジオシンセティックスに関する技術的研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者）

原 健二，澁谷 啓，齋藤雅彦

『ジオシンセティックスを用いた「L 型排水盛土防水工」の 研究開発』

（2）2009 年表彰委員会設営費報告

2009 年設営費	150,000 円
賞状費用	5,393 円
盾費用	95,130 円
計	100,523 円

表彰委員会 2010 年活動計画

（1）2010 年表彰委員会活動予定内容

・2010 年度 IGS 日本支部賞の選考，報告など

・IGS 賞本部賞選考などのお手伝い

（2）2010 年表彰委員会予算案

盾、賞状作成費として　150,000 円

以上

コーポレートメンバー委員会 2009 年活動報告

（1）2009 年活動報告内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載した。

（2）2009 年委員会設営費報告

委員会設営費　：　収入　50,000 円
支出　0 円
残金　50,000 円

コーポレートメンバー委員会 2010 年活動計画

（1）2010 年活動予定内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載する。
- IGS 選挙の電子投票の呼びかけ，全コーポレートメンバーが投票できるようにすること。（ＩＧＳ本部名簿の修正等を行う）
- 9thICG：ブラジル会議への参加／協力の呼びかけ
- 各委員会からの連絡事項への協力
- その他／会社単位での入会勧誘活動を行う。

（2）2010 年設営費計画

委員会設営費　：　収入　50,000 円

※）会議費等で使用予定

災害復旧技術委員会 2009 年活動報告

（1）2009 年災害復旧技術委員会活動報告内容

委員長：桑野二郎、2009 年 12 月時点総員 22 名

1）降雨 WG（安福規之主査）、地震 WG（若井明彦主査）に分かれて活動（なるべく同日開催）

1-1）降雨 WG

2009 年 5 月 21 日：昨年度の活動結果の整理（補強土の被災事例アンケート結果の確認など）、
今年度活動計画（アンケート結果の二次調査，成果報告書，IGS シンポジウムでの報告など）の検討

2009 年 7 月 1 日：降雨による被災事例（12 件）に関するヒアリング内容と担当者の検討，
活動報告内容についての意見交換

2009 年 8 月 21 日：平成 21 年 7 月九州北部豪雨における補強土構造物被災事例の紹介，降雨による被災事例に関するヒアリング内容の検討

2009 年 11 月 4 日：災害ヒアリングシート内容・実施要綱の確認，ヒアリング担当者の選定，
IGS シンポジウム報告について

2009 年 11 月中旬から 12 月初旬：
ヒアリング結果のとりまとめと IGS シンポジウムにてヒアリング内容等の報告

1-2）地震 WG

2009 年 5 月 21 日：昨年度の活動結果の整理（被災事例アンケート結果の確認や、補強土被災事例の分析）、
今年度の活動計画(活動報告の目次構成(案)の作成

2009 年 7 月 3 日：新潟地震被災・復旧事例の説明、目次・執筆担当の仮決定

2009 年 9 月から 10 月：地震被災事例の整理

2009 年 11 月 4 日：作業進捗の報告,被災事例の整理と分析（所定の様式）、IGS シンポジウム報告について

2）2009 年 12 月 3 日：委員会活動報告（安福降雨 WG 主査、若井地震 WG 主査）
（アンケート結果・二次調査ヒアリング結果概要報告）

（2）2009 年災害復旧技術委員会設営費報告

収入　¥200,000-（2009 年度委員会予算）

支出　　¥0-（交通費、資料送料）

合計 +¥200,000-

災害復旧技術委員会 2010 年活動計画

（1）2010 年災害復旧技術委員会活動予定内容

地震 WG と降雨 WG それぞれ数回会合を開く。(WG は相互に参加可能であり、また情報をなるべく共有する)
アンケート調査と二次調査ヒアリング結果の分析を進め、報告書にまとめる。

適宜、全体会議を開く。

（2）2010 年災害復旧技術委員会設営費計画

収入　¥200,000-（2010 年度委員会予算）

支出　¥200,000-（委員会費、調査費、その他経費）

合計　　¥0-

ジオテキスタイル技術委員会（第Ⅳステージ）2009 年活動報告

（1）ジオテキスタイル技術委員会 2009 年活動報告

ジオテキスタイル技術委員会第Ⅳステージ（2007 年 1 月～2009 年 12 月）では、ジオグリッド補強土壁のＬＣＣ（ライフサイクルコスト）の算定法を開発することを目的とし、下記の３つの課題に対してWG活動と、それぞれのWGで得られた成果をまとめる全体活動の２本柱で活動した。

ＷＧ１：コストWG／建設時，破壊が生じた後の復旧時のコスト算定法について検討

ＷＧ２：信頼性WG／地震や降雨による破壊確率の計算法を検討

ＷＧ３：材　料WG／ジオグリッド（材料特性）の経年変化の評価法やモデル化について検討

なお、2009 年は委員会最終年であるため、本委員会で得られた成果を報告書としてとりまとめる。

2009 年は、2 回の全体委員会と計 4 回のWGを実施した。その議事は下記の通りである。

○ 第 4 回 WG1，3：平成 21 年 1 月 23 日（木）、13：00-17：00、地盤工学会中会議室

1) 被災事例分析

2) 復旧工事費算出

○ 第 5 回 WG1：平成 21 年 4 月 3 日（金）、15：00-17：00、地盤工学会中会議室

1) 被災事例分析

2) 復旧工事費算出

○ 第 4 回全体委員会：　平成 21 年 5 月 26 日（火）、14:00-17:00、地盤工学会中会議室

1) 各 WG の進捗状況について

2) 全体スケジュールについて

○ 第 6 回ＷＧ１：　平成 21 年 7 月 17 日　（木）、14：00-17：00、地盤工学会中会議室

1) 被災事例分析について

2) 復旧工事費算出について

○ 第 5 回全体委員会：　平成 21 年 10 月 30 日

1) 各 WG の進捗状況について

2) 全体スケジュールについて

○ 第 7 回 WG1，2：平成 21 年 12 月 22 日

1) 標準断面の設定について

2) 破壊確率の試算について

報告書（2010 年 3 月，電子媒体にて公開予定）の目次は以下のとおり．

第1章　はじめに

第2章　LCC に関する既往の研究

第3章　ジオグリッドの長期材料特性

第4章　ジオグリッド補強土壁の経済性の評価法

第5章　ジオグリッド補強土壁の性能評価法

第6章　ジオグリッド補強土壁のライフサイクルコストの評価法

第7章　おわりに

（2）2009 年委員会設営費報告

2009 年 委員会設営費報告（自 2009 年 1 月 1 日 ～至 2009 年 12 月 31 日）

科　目	予 算	決 算	備　考
1. 委員交通費	¥180, 000-	¥181, 000-	委員会交通費 (1/23, 2/6, 4/3, 5/26, 7/17, 10/30, 12/22)
2. 通信・消耗品費	¥20, 000-	¥0-	
合　計	¥200, 000-	¥181, 000-	

ジオテキスタイル技術委員会(第Ⅴステージ)2010 年活動計画

（1）2010 年活動計画

ジオテキスタイル技術委員会第Ⅴステージ（2010 年 1 月～2012 年 12 月）では、ジオグリッド補強土壁の環境負荷低減効果の評価法の確立を目標に全体委員会を年２回、WGを年５回開催する予定である。

委員会組織

委員長：　宮田　喜壽（防衛大学校　建設環境工学科）

委　員：　未　定（公募予定）

（2）2010 年設営費計画

2010 年度 委員会予算（自 2010 年 1 月 1 日 ～至 2010 年 12 月 31 日）

科　目	予 算	備　　考
1. 委員交通費	¥180, 000-	全体委員会：¥40, 000（1 回）×2 回=¥80, 000- WG：¥20, 000（1 回）×5 回=¥100, 000-
2. 通信・消耗品費	¥20, 000-	郵便，通信，資料コピー，封筒等
合計	¥200, 000-	

ジオメンブレン技術委員会(第Ｖステージ)2009 年活動報告

（1）ジオメンブレン技術委員会 2009 年活動報告

ジオメンブレン技術委員会では、第Ⅳステージの成果を「廃棄物処分場における遮水シートの耐久性評価ハンドブック」としてとりまとめ、技報堂出版より出版した。その目次は以下のとおり。

第1章　遮水材料の概説
第2章　遮水工の概要
第3章　耐久性評価試験方法と評価データ
第4章　現地遮水シートの耐久性評価
第5章　耐久性の評価と推定方法
第6章　遮水機能の長期信頼性向上のための新しい提案

また、今後の廃棄物最終処分場におけるジオメンブレン（あるいは他のジオシンセティックス）の普及と活用をめざした第Ｖステージのテーマ探索を行った。

（2）2009 年委員会設営費報告

委員会未開催

2009 年 委員会設営費報告（自 2009 年 1 月 1 日 ～至 2009 年 12 月 31 日）

科　目	予 算	決 算	備　考
1. 委員交通費	¥40, 000-	¥0-	
2. 通信・消耗品費	¥10, 000-	¥0-	
合計	¥50, 000-	¥0-	

ジオメンブレン技術委員会(第Ｖステージ)2010 年活動計画

（1）2010 年活動計画

ジオメンブレン技術委員会第Ｖステージでは、今後の処分場リニューアル・土壌汚染対策・不適正処分場対策における新しい材料・技術提案をテーマに活動する。具体的には、欧米で主流となっている吹付遮水工に着目し、その海外技術動向や国内課題の整理を行う予定である。

委員会組織

委員長：　島岡　隆行（九州大学大学院工学研究院）
委　員：　未　定（公募予定）

（2）2010 年設営費計画

2010 年度 委員会予算（自 2010 年 1 月 1 日 ～至 2010 年 12 月 31 日）

科　目	予 算	備　考
1. 委員交通費	¥180, 000-	¥45, 000（1 回）×4 回=¥180, 000-
2. 通信・消耗品費	¥20, 000-	郵便，通信，資料コピー，封筒等
合計	¥200, 000-	

新技術委員会 2009 年活動報告

（1）2009 年活動報告内容

新技術委員会では 2009 年の活動として、

①ジオシンセティックスの新技術情報の調査・研究や新技術委員会の活性化を目的として、委員会として１つテーマを模索し、研究・実験を行うために外部資金の獲得する活動

②ジオシンセティックスの新技術に関するデータベースの作成

を行った。①については、研究テーマ選定の結果、2009 年は研究テーマとして「ジオシンセティックスのネッキング現象を抑えた引張り試験に関する基礎的研究」を選定し、前田記念工学振興財団の平成 22 年度研究助成に申請を行った。選考の結果、不採択となった。②については、早急にデータベースの学会ホームページでの開示に向け調整を行った。以下に 2009 年活動内容を表にして示す。

	日時	場所	議事内容	備考
第１回	平成 21 年 4 月 8 日	明星大学	・2009 年活動方針 ・データベース進捗状況 ・新技術情報の調査・研究について ・大学設備の見学 ・2009 年スケジュール	
第２回	平成 21 年 7 月 3 日	(社)地盤工学会	・データベース進捗状況 ・新技術情報の調査・研究について ・話題提供「入札方式の傾向と対策」 ・今後の予定	
第３回	平成 21 年 10 月 13 日	(社)地盤工学会	・平成 22 年度前田記念工学振興財団申請の件	
第４回	平成 21 年 12 月 2 日	(社)地盤工学会	・各社における「環境」「維持管理」「防災」に関連する技術について	

（2）2009 年委員会設営費報告

2009 年の設営費報告を以下に示す。

収入	支出	残額	支出項目	備考
300,000	20,497	279,503	会議費・通信費等	

新技術委員会 2010 年活動計画

（1）2010 年活動予定内容

新技術委員会では 2010 年も 2009 年同様の活動を継続する。

①ジオシンセティックスの新技術情報の調査・研究や新技術委員会の活性化を目的として、研究・実験を行うために外部資金の獲得する活動

②ジオシンセティックスの新技術に関するデータベースの作成

③新技術関連の講演会の開催

（2）2010 年設営費計画

2010 年の設営費計画を以下に示す。

交通費	会議費	講演会費	計	備考
50,000	50,000	50,000	150,000	

財務委員会報告

（１）２００９年度会計決算報告（別紙　参照）

収入は、会費等収入が予算より６２万円程度の減少となり、全体では７３万円ほどの減少となった。

支出は、全科目とも予算より少なくなり、全体では３２８万円程度の減少となった。

繰入れ費を除いた収入実績は 7,384,136 円、支出実績は 7,904,920 円となり、520,784 円の支出オーバーとなった。

２０１０年度への繰越金は、20,974,864 円となった。

（２）２０１０年度会計予算（別紙　参照）

収入は、会員数の減少により昨年度より６０万円弱の減少予算となった。

支出は、ブラジル会議への派遣費補助等で昨年より７０万円弱の増加予算となった。

今年度の予算は、４３１万円（収入７５７万円、支出１１８８万円）のマイナス予算である。

２０１１年度への繰越金は、16,664,864 円となった。

IGS日本支部　2009年度会計決算

期間：2009年1月1日～2009年12月31日

平成22年2月8日

収入の部

科　目		2009年予算	2009年実績	備　考
1. 会費等収入				
①2008年度分	法人会員	4,800,000	4,560,000	19社×240,000円/社
	個人会員	1,920,000	1,448,000	181名×8,000円/人
	学生会員	20,000	11,000	11名×1,000円/人
②本部還付金	法人会員分	100,000	198,924	24社×50＄(90.42円/$)、overpayment分返金(1000＄)
	(小計)	6,840,000	6,217,924	
2. 講習会・出版等収入				
	シンポジウム	520,000	506,000	参加費＋懇親会収入＋フットサル参加費
	講習会，見学会他	50,000	0	参加費
	書籍，ビデオ等販売	100,000	26,000	
	書籍印税	0		
	(小計)	670,000	532,000	
3. 広告等収入				
	技術情報誌広告	600,000	624,000	2008年7月号・11月号、2009年3月号・7月号・11月号
	(小計)	600,000	624,000	
4. 受取り利息等				
	受取り利息	10,000	10,212	
	その他	0	0	
	(小計)	10,000	10,212	
	(2008年度　収入合計)	8,120,000	7,384,136	
5. 繰越し金				
	一般会計繰越し金	21,495,648	21,495,648	2008年度繰越金
	(小計)	21,495,648	21,495,648	
	(収入・繰越金　総合計)	29,615,648	28,879,784	

資料2－2

支出の部

平成22年2月8日

科　目	2009年予算	2009年実績	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出			担当：事務局
法人会員	2,000,000	1,808,400	20社×1000＄/社×90．42円/＄
個人会員	720,000	651,024	240名×30＄/名×90・42円/＄
学生会員	0	0	20名×0円/名
（小計）	2,720,000	2,459,424	
2. 講習会・出版等支出			
シンポジウム	520,000	628,653	担当：行事委員会
入門セミナー，外国人講演会、見学会他	100,000	95,000	担当：学生教育委員会
用語集出版費	100,000	0	担当：編集委員会（繰り越し）
税金、原稿料等	50,000	0	税金,原稿料,ｱﾙﾊﾞｲﾄ代
（小計）	770,000	723,653	
3. 技術情報発行費			担当：編集委員会，（名簿：事務局）
技術情報誌印刷製本費	1,550,000	1,321,057	140万（情報誌）＋15万（名簿作成費）
編集補助作業，原稿料他	500,000	19,000	アルバイト代、原稿料
発送，連絡費	350,000	247,280	3月号、7月号、11月号発送費用
（小計）	2,400,000	1,587,337	
4. 委員会経費			担当：各委員長
国際連絡委員会	1,000,000	830,946	本部理事会派遣費
コーポレート委員会	50,000	0	
編集委員会	200,000	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	50,000	13,860	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	100,523	委員会費5万+盾，賞状作製費10万
技術委員会	0	0	
ジオテキスタイル技術委員会	200,000	181,000	
ジオメンブレン技術委員会	50,000	0	
新技術委員会	300,000	20,497	委員会費9万+データベース作成費21万
ジオシンセティックス試験法委員会	200,000	0	
学生教育委員会	100,000	99,741	見学会，入門セミナー含む
電子情報委員会	200,000	80,410	論文電子化作業費含む
財務委員会	0	0	
ｼﾞｵｼﾝｾﾃｨｯｸｽ使用量ｱﾝｹｰﾄ調査	0	0	
技術普及委員会	200,000	0	
災害復旧技術委員会	200,000	0	
（小計）	2,900,000	1,526,977	
5. 事務局経費,その他			担当：事務局
総会	100,000	64,019	総会+懇親会費
地盤工学会謝礼	350,000	300,000	地盤工学会謝礼(30万円)+会議室使用費・コピー代(5万円)
事務局費	200,000	100,000	埼玉大学コピー代その他
通信費	150,000	78,280	
消耗品費	300,000	234,348	
傭人費	1,000,000	739,600	事務局傭人費
幹事会	100,000	39,420	会議費，幹事交通費、通信費資料購入など
その他	200,000	51,862	事務局交通費，慶弔費等、送金費、謝金
（小計）	2,400,000	1,607,529	
（2009年度　支出合計）	11,190,000	7,904,920	
6. 予備費・繰入れ費			
2009年から2010年への繰越金	18,425,648	20,974,864	2010年度への繰越金
（支出合計）	29,615,648	28,879,784	

IGS日本支部　2010年度会計予算

期間：2010年1月1日～2010年12月31日

平成22年2月8日

収入の部

科　目		2010年予算	備　考
1. 会費等収入			
①2010年度分	法人会員	4,560,000	19社×240,000円/社
	個人会員	1,760,000	220名×8,000円/人
	学生会員	20,000	20名×1,000円/人
②本部還付金	法人会員分	100,000	20社×50＄　(100円/$)
(小計)		6,440,000	
2. 講習会・出版等収入			
	シンポジウム	520,000	参加費＋懇親会収入
	講習会，見学会他	50,000	参加費
	書籍，ビデオ等販売	100,000	
	書籍印税	0	
(小計)		670,000	
3. 広告等収入			
	技術情報誌広告	450,000	3月号、7月号、11月号
(小計)		450,000	
4. 受取り利息等			
	受取り利息	10,000	
	その他	0	
(小計)		10,000	
(2010年度　収入合計)		7,570,000	
5. 繰越し金			
	繰越し金	20,974,864	2009年から2010年への繰越金
(小計)		20,974,864	
(収入・繰越金　総合計)		28,544,864	

支出の部

平成22年2月8日

科　目	2010年予算	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出		担当:事務局
法人会員	1,710,000	19社×1000＄/社×90円/＄
個人会員	594,000	220名×30＄/名×90円/＄
学生会員	0	20名×0円/名
(小計)	2,304,000	
2. 講習会・出版等支出		
シンポジウム	520,000	担当:行事委員会
講習会・見学会補助費	100,000	
用語集出版費	50,000	担当:編集委員会(繰り越し)
税金、原稿料等	50,000	税金,原稿料,ｱﾙﾊﾞｲﾄ代
(小計)	720,000	
3. 技術情報発行費		担当:編集委員会,(名簿:事務局)
技術情報誌印刷製本費	1,550,000	140万(情報誌)＋15万(名簿作成費)
編集補助作業, 原稿料他	50,000	アルバイト代、原稿料
発送, 連絡費	250,000	3月号、7月号、11月号発送費用
(小計)	1,850,000	
4. 委員会経費		担当:各委員長
国際連絡委員会	1,000,000	ブラジル会議、理事会派遣費
コーポレート委員会	50,000	
編集委員会	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	50,000	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	委員会費5万+盾, 賞状作製費10万
技術委員会	0	
ジオテキスタイル技術委員会	200,000	
ジオメンブレン技術委員会	200,000	
新技術委員会	150,000	
ジオシンセティックス試験法委員会	200,000	
学生教育委員会	100,000	見学会, 入門セミナー
電子情報委員会	100,000	HP更新・改良
財務委員会	0	
技術普及委員会	0	
災害復旧技術委員会	200,000	
(小計)	2,600,000	
5. 事務局経費,その他		担当:事務局
総会	60,000	総会+懇親会費
地盤工学会謝礼	350,000	地盤工学会謝礼(30万円)+会議室使用費・コピー代(5万円)
事務局費	200,000	埼玉大学コピー代その他(08,09年分)
通信費	80,000	
消耗品費	200,000	
傭人費	750,000	事務局傭人費
幹事会	40,000	会議費, 幹事交通費、通信費資料購入など
その他	50,000	事務局交通費, 慶弔費等、送金費、謝金
(小計)	1,730,000	
(2010年度　支出合計)	9,204,000	
6. 予備費・繰入れ費		
2010年から2011年への繰越金	19,340,864	
(支出合計)	28,544,864	

監 査 報 告 書

国際ジオシンセティックス学会日本支部の2009年一般会計について帳簿・証票・書類等を検証の結果、適正かつ正確であることをご報告申し上げます。

平成22年2月8日

会計監事 間 昭徳

署名 間 昭徳 印

会計監事 石川 雅洋

署名 石川 雅洋 印